



「食べていくのがやっと。病院にかからないようにしています。」
「保険料が高く、支払いが滞っている。払えないもどかしさを感じる。」

切実な実態が報告されました

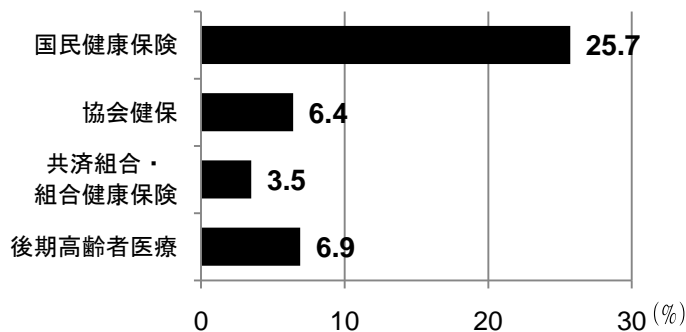
10月26日、熊本市国保をよくする会（代表：高林秀明熊本学園大学准教授）は、9月に実施した熊本市における国保実態調査の報告会を行いました。

調査は、保険料の負担感、健康状況や受診状況、医療制度への要望などについて、市内701世帯に対して、聞き取りによって行われたものです。



「保険料が日々の生活を圧迫」「保険料が高く支払いが追いつかない」と答えた方が4人に1人

「保険料が日々の生活を圧迫」「支払いが追いつかない」と答えた割合



左のグラフは、保険料の負担感についての調査結果です。「日々の生活を圧迫」「支払いが追いつかない」と答えた方が、国保では25%にのびます。他の医療保険と比較しても、国保の負担が重いことが一目瞭然です。

具体的な声

- 滞納額は10万円。食べていくのがやっとで、お金がかかるので、腰や腹、頭痛をがまんして病院にかからないようにしている。冷蔵庫もなくインスタント食品ばかり。電気を使わず、夜も電気をつけない。(55~64歳 女性 国保)
- 5・6年前に収入が不安定になり無保険に。保険料を払う余裕すらないのに10割負担では病気になった時が不安。(45~54歳 女性 無保険)

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 731

2010年11月7日

電話 328-2656

FAX 359-5047

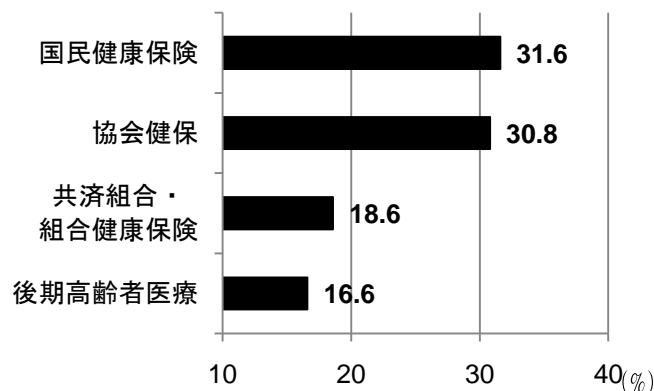
メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

「病気があってもがまんした」「診療回数を減らした」「治療を中断した」など

経済的な理由での受診抑制が3割

経済的な理由での受診抑制があると答えた割合



経済的な理由で医者にかかることを我慢したり、治療を中断したことがあると答えた方が、国保では3割にのびます。

また、今回の調査で、無保険となった方の86%が受診抑制をしていることも明らかになりました。

カネがなければ医者にかかれないという社会保障の制度上あってはならない事態も生まれています。

来年度の国保料の値上げはストップし、払える保険料へと引き下げを！

こうした深刻な実態が明らかになるなかでも、熊本市は来年4月に1人あたり9900円の保険料値上げを計画しています。さらなる値上げは、国保世帯の生活をいっそう圧迫し、受診抑制や健康被害を招いてしまいます。今行おうべきことは、国保料の値上げではなく「引き下げ」です。

【控室から】
「政治を変えたい」

上野 みえ子

紅葉が山から下りてきて、街も色づく季節となりました。我が家の庭でも、ハナミズキが真っ赤に燃えています。あんなに暑かった夏が嘘のように、すっかり冷え込んできました。

夕方、「熊本市をよくする市民の会」の宣伝カーに乗り込んできたお嬢さんたちが抱えてきたひざ掛けに、近づく「冬」を感じました。

政令市・熊本の将来が託される市長選挙、「熊本市をよくする市民の会」には、たくさんの方々から、切実な声が届けられました。「国民健康保険が払えないんです」「お金がなくて、病院に行けません」「保育所に子どもを預けて、早く仕事につきたい」「景気が冷え込んで、商売は大変です」「老後の不安でいっぱいです」「仕事がなくて生活ができません」「私たちの声を聞いてください」……。

街を走る宣伝カーに、子ども達は「おばちゃん、教室にエアコンつけてね！」と、駆け寄ってきます。真っ暗になった団地のベランダからの大きな拍手や声援。手を振り、見上げながら、込められた「政治を変えたい」の願いを、ひしひしと感じました。

政治を変えるのは、有権者の「一票」です。やがて迎える冬が暖かい気持ちで過ごせるよう、思いを受け止め、女性パワーでがんばります。

議会の役割は市民と市政の『架け橋』『市政のチェック役』

中核市・政令市で「議会広報紙」発行なしは 熊本・倉敷市議会だけ 熊本市議会でも早期発行を!!

『市議会一体何をしているのか分からない』『議員が多すぎる』など厳しい市民の視線が議会に注がれています。新聞・テレビでは、議会のほんの一部が報道されるだけです。中核市・政令市で『議会広報紙』を発行していないのは、熊本と倉敷市議会の2市だけになりました。全国では、議会が直接市民の意見を聞く機会や全議員が参加しての『議会報告会』などの日常的な努力がなされています。熊本市議会でも、『市議会だより』の発行や全議員参加の『議会報告会』などの早期実現が求められます。

『政務調査費』の領収書添付公開など前進

「議会だより」発行など更なる『議会改革』に向けがんばります!!

熊本市議会では、議会運営委員会のもとに、「議会活性化検討委員会」がおかれ、政務調査費の使途基準見直し、領収書添付・公開などを実施してきました。政務調査費の監査請求・裁判など市民の皆さんの議会の「ムダづかい」への厳しい視線が前進の大きな原動力です。

(これまでの議会改革)

- 1、費用弁償の距離制を導入した支給基準への変更(07年9月6日～)
- 2、本会議のインターネット中継(07年12月10日～実施)
- 3、政務調査費の領収書添付、使途基準見直し(08年4月1日～)
- 4、予算決算委員会の設置(10年3月2日～)

日本共産党は「費用弁償廃止」を求め供託中です。

日本共産党市議団は、議会出席の際に支払われる費用弁償については、廃止を目指し、受け取らず、法務局に供託しています。議会運営委員会で視察した堺市議会、亀岡市議会でも費用弁償は、すでに廃止されていました。

「税金のムダをなくしたい」～市民の皆さんと 日本共産党の思いは同じです

『議員定数削減』や『議員歳費』の削減などの「議会の予算の使い方」に関心が集まっています。「税金のムダづかいをなくせ」ということでは、日本共産党も全く同じ思いです。

ムダを削るには、まず「大型開発」など大きなムダから

ムダを削るには、まず第1に、一番大きなムダに手をつけることが必要ではないでしょうか。(議会費は9億7千万円、一般会計2300億の0.4%)

私たちは、大型開発やハコ物建設のムダづかいの見直しを求め、がんばっています。築29年、まだまだ使える産業文化会館を4億円かけて壊し、総額233億円もの民間の再開発ビル建設はもったいない話です。市の負担だけでも20億円を超えます。西部環境工場の建替え費用は160億円、運営費は20年間で80億円です。家庭ごみの約半分を占める生ゴミを分別・資源化し、規模を縮小すれば、建設費を削減できます。

議員の役割は、市政と市民の『架け橋』

議会と議員は、地方自治の大事な担い手であり、「ムダだから、少ないほうが良い」とばかりは言われません。熊本市議会の法定定数は56人ですが、条例定数は48名、現在3町合併により、3名増え、51人(城南町の1名の定数は、選出なし)となっています。(平成の合併・政令市の議員定数:相模原市49人、新潟市56人、浜松市54人、堺市52人、岡山市52人)

議員の本来の役割は、市民の声を届け、市政と市民をつなぐ大事な『架け橋』です。また、市議会は、市政をチェックする役割をもっています。

日本共産党は、こうした大事な役割をもつ議員を必要以上に削ることは、賛成できません。「本来の仕事をやっていない議員が多すぎる」とのご批判は、選挙でこそ生かすべきではないでしょうか。